

車椅子でもOK！だれでも集える多目的交流スペース 「ちえのわチュンチュンカフェ」で広がるつながりの輪



親子カフェの様子。通常のカフェ営業に加えて、曜日ごとにそれぞれの世代が訪れるやするようにテーマを設けている

ロープやトイレも整備されて、車椅子の方、赤ちゃん連れのお父さんお母さん、みなさん安心して来ていただけるようになりました。また、この施設の完成に合わせて「特定非営利活動法人(NPO法人)」の法人格も取得することができたので、安定した運営ができる田舎も立ちました。

「ねべのわチュンチュンカフェ」のメインの活動は、高齢者対象の「ワイヤイケン・サロン」です。居心地の良さが伝わり、参加者も増えているようです。参加者の方の中には、お手玉作りや、わらべ唄などが得意な方々です。開設前に「プロから何度もコーヒー淹れ方を教わった成果もあり、「美味しいコーヒーが飲める喫茶店」ということが伝わりはじめています。散歩の途中に寄ってくれる方、「掃除に疲れたから、美味しいコーヒーを飲みに来た」とふらつと立ち寄る方など、これまでのぐるーぶ・ちえのわとは縁がなかった人もつながり始めています。誰にでも開かれた居場所が実現しつつあります。

今、カフェは、担い手が第一世代から次の世代に引き継がれつつあります。

「まなぶ・あそぶ・つくりだす」活動に加えて、「つながる・支え合う」



ぐるーぶ・ちえのわの施設全体でのイベントの際にも中核的な会場として活用されている



地域で生きる」とが大切にされる社会を目指すNPO法人ぐるーぶ・整備主体：ぐるーぶ・ちえのわ事業検討委員会 整備場所：戸塚区小雀町1115-1 整備内容：多世代・多目的スペースのバリアフリー、スローブ、キッチン、内装工事等 基本設計：令和3年12月

「ぐるーぶ・ちえのわ」は、これまで30年以上にわたり、小学校の教員だった奥山さんを中心とした地域の方たちと、障がいのある人もない人も共に、生き生きと楽しい活動ができる場をめざして、活動してきた団体です。初めは拠点を持たず、キャンプや遊びの集いを地域ケアプラザ等の場所を借りて行つきました。

平成18年に小雀町の民家を借りてからは、子どもたちへの学習支援をする「寺子屋」も始めました。その後、隣の民家が空くと調理や野外活動などの余暇活動支援を行うホームをつくり、さらにまた隣の民家が空くとさをり織りや染物等を行なう施設に、という形で次々と施設は増え、平成29年時点で計4棟となり、「まなぶ・あそぶ・つくりだす」活動を展開してきました。

でも、障がいのある方を中心とした活動であるのに、いすの施設に行くにも入り口には急なスロープ、車椅子の方が利用しにくいトイレ、利用する方が不自由な思いをする、という課題もありました。また、地域の方たちに活動内容は理解されているものの、訪れる方は限定的で、「開かれていい」とは言い切れない状況でした。

「まなぶ・あそぶ・つくりだす」活動を展開してきました。

でも、障がいのある方を中心とした活動であるのに、いすの施設に

行くにも入り口には急なスロープ、車椅子の方が利用しにくいトイレ、利用する方が不自由な思いをする、という課題もありました。また、地域の方たちに活動内容は理解されているものの、訪れる方は限定的で、「開かれていい」とは言い切れない状況でした。

そんな時、またまた隣家が空くこと

がわかりました。だつたり、せひ、赤ちゃんから高齢者まで、様々な人たちが気軽に集える場にしたい、と

区の社会福祉協議会に相談に行き、ヨコハマ市民まち普請事業を知ります。申し込みの期限が迫つてい

る時期でしたが、自分たちの活動にぴったりの事業だと張り切つて、申込みを決めます。提出書類や発表資料の作成には苦労しましたが、

事務作業が得意な人が、持っているスキルを大いに発揮、メンバー、地域の方たちが一丸となり、見事コンテストを通過しました。

工事の際にも、そうした地域の力が発揮されました。ぐるーぶ・ちえのわの活動に共感して、協力をしてくれた事業者さんたちに教えてもらひながら、みんなで塀にタイルを貼つたり、「しつくりワーキングショップ」として沢山の人気がしつくり塗りに挑戦したり、ウッドデッキも地域の方たちと一緒にになって整備をしまし

た。そこには、これまでのキャンパイントなどの参加者も、本当に沢山参加してくれたそうです。

そして、令和3年12月、ぐるーぶ・ちえのわにとつて5軒目の施設、障がいのある人もない人も誰でもそこで憩い、交わり楽しむことができるような施設となる「ちえのわチュンカフェ」がついに完成しました。みんなの思いを詰め込んだ、と

地域で生きる」ことが大切にされる社会を目指すNPO法人ぐるーぶ・整備主体：ぐるーぶ・ちえのわ事業検討委員会 整備場所：戸塚区小雀町1115-1 整備内容：多世代・多目的スペースのバリアフリー、スローブ、キッチン、内装工事等 基本設計：令和3年12月



しつくり塗りは大人も子どもも楽しみながら住民の手で行った